

耐震診断

小・中学校と幼稚園の耐震診断結果を公表します

学校施設等は、児童生徒などが一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、非常災害時には地域住民の避難場所としての役割を果たすことから、その安全性の確保は極めて重要です。

町では、建築基準法施行令の改正（昭和56年6月）前の基準で建築された校舎と体育館について耐震診断を実施しました。このたび、わかば幼稚園の「耐震診断判定」が終了しましたので公表します。

また、札内南小学校と忠類中学校の体育館の耐震補強工事が終わりましたので、補強工事後の数値も合わせて公表します。



わかば幼稚園園舎

学校等名	建物の概要					耐震診断結果		備考
	区分	構造	階数	建設年月	面積(m ²)	Is値	q値	
わかば幼稚園	園舎	R	1	昭和53年11月	524	0.75	0.80	耐震性能あり
札内南小学校	体育館	S		昭和54年11月	775	0.25	0.77	補強後数値
						0.74	1.09	
忠類中学校	体育館	S		昭和55年11月	978	0.09	0.27	補強後数値
						0.88	1.60	

【用語の意味】

〈構造〉 R Ⅱ鉄筋コンクリート造
S Ⅱ鉄骨造

〈Is値〉建築物の耐震性能を判断するための数値（構造耐震指標）で国土交通省では、安全目安として0.6以上とし、大規模な地震に対し0.3未満の場合、倒壊または崩壊の危険性が高いとしており、0.3〜0.6未満では危険性がある、0.6以上では危険性が低いとしています。

地震力に対する建物の強度



札内南小学校体育館



忠類中学校体育館

および靱性（変形能力、粘り強さ）が大きいため、この指標も大きくなります。文部科学省では、学校施設について、建物の特殊性や避難所としての用途を考慮し、耐震改修の目安としてIs値0.7未満としています。

〈q値〉「保有水平耐力に係る指標」と呼ばれ、地震による水平方向の力に対して建物が対応する強さを表すもので、その値が大きいほど強さがあり、R（鉄筋コンクリート造）では0.35以上、S（鉄骨造）では1.0以上が目標値とされています。